

災害関連死ゼロの社会を目指す

<28>

要配慮者（災害時要
保護者）の避難誘導

東日本大震災では、被
者の増加傾向が続く中、

外国人旅行者の行動や避
難誘導の課題を理解し、

65歳以上の高齢者の死者
数が約6割に上り、また

障害者の死亡率は被災住
民全体の死亡率の約2倍

も高かったことが指摘さ
れました。このように大

規模な災害発生時には
地域で暮らす障害者や要

保護高齢者など災害対応
能力の弱い者（以下「災

害時要保護者」という）
は、情報の入手や自力で

の避難が困難なごとか
ら、大きな被害を受ける

●高齢者への対応

●「肢体不自由な」

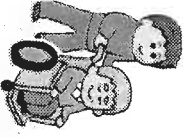
者」について避難誘導中

今回はその中で「高齢

者」について避難誘導中

に心迷っていきま

す。



まず高齢者の場合、高
齢者の寝姿は、倒れたり

落ちてるものがないよ
うにし、できるだけ避難

しやすい場所に設けま
す。また避難時の移動に

る。次に避難誘導のポイ
ントに記します。

●避難誘導のポイント

●「肢体不自由な」の
対応

病気やけがにより上肢
や下肢などの機能に障害

がある場合、立ち上がり
たり、座ることや歩行が

困難になり車いすや義足
などの補助

器具が必要
な場合があります。

●「肢体不自由な」
者」について避難誘導中

今回はその中で「高齢

者」について避難誘導中

に心迷っていきま

す。

●「肢体不自由な」

者」について避難誘導中

今回はその中で「高齢

者」について避難誘導中

に心迷っていきま

す。

災害関連死ゼロフォーラム
https://zero-forum.jp/
一般社団法人地域防災支援協会
https://www.boushikyo.jp/
一般社団法人日本環境保健協会
https://jehs.or.jp/

ないよう配慮することも
行う。

●移動用具が確保でき
ない場合には、おびひ

もでおびったり、毛布等
で作った応急担架等によ

り避難させる。

●「肢体不自由な」の
対応

病気やけがにより上肢
や下肢などの機能に障害

がある場合、立ち上がり
たり、座ることや歩行が

困難になり車いすや義足
などの補助

器具が必要
な場合があります。

●「肢体不自由な」
者」について避難誘導中

今回はその中で「高齢

者」について避難誘導中

に心迷っていきま

す。

●「肢体不自由な」

者」について避難誘導中

今回はその中で「高齢

者」について避難誘導中

に心迷っていきま

す。

●「肢体不自由な」

者」について避難誘導中